

青少年だより かけ橋

令和元年度 第2号 <5月発行>

音更町教育委員会

子どもたちの大切な命を守るために！

子どもの交通事故は、入学・進級したての4月より、5月以降の方が多くなる傾向があります。新しい生活や環境に慣れてきたころ、子どもたちの行動範囲は広がり、気の緩みが出やすくなる時期でもあります。交通事故の主な原因は安全確認不足です。落ち着いて周囲を見渡すゆとりを持つためには、時間の余裕を持って行動することも大事です。

= 交通事故から守る =

子どもの交通事故で一番多いのは、急な飛び出しによる事故です。自宅から500メートル以内で発生することが最も多く、信号機や横断歩道が設置されている場合でも発生しています。



要注意！

■飛び出し事故防止

- ・子どもの事故は小学校低学年が多く、1年生の事故は6月に多発しています。
- ・登下校時（午前7～8時、午後2～5時）に多発しています。
- ◆「止まる」「見る」「待つ」を繰り返し教えましょう。
赤信号で待つのはもちろんですが、信号機のない交差点や道路を横断するときにも、必ず、「止まる」「見る」「待つ」ことが大事です。繰り返し伝えることによって子どもを交通事故から守ることにつながります。
- ◆「安全確認のポイント」や「渡るタイミング」を具体的に教えましょう。
子どもを交通事故から守るためには、通学路や事故が起きやすい場所を親子で一緒に確認して、「安全確認のポイント」や「渡るタイミング」を具体的に教えましょう。

要注意！

■自転車事故防止

- ・子どもの自転車事故は、小学校低・中学年の男児が多く、5月以降に急増しています。下校後の午後3時～5時に多発しています。
- ・道路交通法によれば自転車は車道通行（道路の左側通行）が原則ですが、13歳未満の子どもが自転車に乗るときは歩道を走ることができます。
- ◆基本的には歩道を走るように教えましょう。ただし、歩道は歩行者優先です。歩行者が多いときや、横断歩道を渡るときは、自転車から降りて押して歩くように教えましょう。また、歩道がない場合は、道路の左側を通行するように教えてください。
- ◆交通ルールを守るように教えましょう。
○信号遵守と一時停止・安全確認 ○二人乗り・並進の禁止 ○片手運転禁止
○イヤホンで音楽等を聴きながらの運転禁止 ○ライト点灯（夜間）
- ◆幼児や児童にはヘルメットを着用させましょう。

青少年の悩みごとは 青少年係へ

電話・FAX 0155-42-5855（生涯学習センター）

子どもたちにとって安心・安全な地域をつくるために“私たちができること”

＝「攻める防犯」が安心・安全な地域をつくる＝
＝犯罪者に対し一番嫌な取り組みを考え行動する＝

■攻める防犯とは

従来型の防犯とは、犯罪者が攻めてくることに関して、どうやって自分たちを防御していくかという守る防犯だった。「攻める防犯」とは、犯罪者に嫌がらせをすることによって、途中であきらめさせるという防犯。私は、犯罪者や非行少年と面接するのが仕事だったため、彼らが私に教えてくれた「こういうときには、犯罪ができるけど、こういうときは、できなかった。」ということを集めて「攻める防犯」理論のバックグラウンドに使っている。

■防犯の主体とミッション

防犯ボランティアの数は、全国的に10年位の間大きく増えており、これが日本の防犯の大きな強み。また、地域防犯をするに当たり、気を付けてもらいたいことは、ケガをしないように安全を第一に考えること。もし、不審者がいたら「おはよう」と言ってみるなど多少の勇気が必要だが、私が何とかしてやろうと勘違いしたら、必ずケガをするからやめていただきたい。

不審者を見つけたら、いち早く警察に通報する、あるいは不審者情報をきちんと流すということが、防犯に携わる方のミッション。

■物理的な防犯と心理的な防犯

防犯には環境整備をすることや、防犯ブザーを持たせるなどの物理的な防犯の考え方もあるが、それだけでは不十分。犯罪者の心理を逆手に取り、犯罪者が何もできないと思えるような心理的な防犯が必要。例えば、子どもの被害が発生しやすい時間帯や場所に、たった一人でも良いから、防犯の腕章を付けた人が立っていてくれるだけで、その地域の中に犯罪者が足を踏み入れなくなる。これが「攻める防犯」

■正しい認識に基づく防犯

年少者を狙った性犯罪は、本当は15時台に小学校1年生の学校帰りの道端で狙っているのに、夕方の公園が危険だと思っている人が多く、親も先生も「夕方の公園は、危ないから早く帰りなさい。」という指示を出してしまう。しかし、本来、子どもたちに伝えるべき情報は、学校帰りに気を付けてということ。メディアを通して頭の中にインプットされている思い込み（主観的現実）ではなく、正確な情報と正しい犯罪認識に基づく防犯でなければならない。

■地域のつながりをサインとして出す

犯罪者に嫌がらせをして、犯罪者のリスクを高めていくことが重要。適材適所に防犯の帽子をかぶっている人や腕章を付けている人がいたり、「こんにちは」とあいさつをされることは、犯罪者にとっては、リスクを高めることになる。犯罪を途中で止めさせる一番大事なことは、地域の皆さんがつながっていること、そして、それをサインとして出すこと。犯罪を思い付いたとしても、犯罪者化させない防犯、それを各エリアの中で話し合っ、自分たちのできることを展開していけば、一層良い地域になる。

(北海道青少年育成大会講演より 東京未来大学 教授 出口 保行 氏)

絶対にやめましょう！『ながらスマホ』『車道でのボード遊び』

自転車運転中に、スマートフォンや携帯電話の画面を見たり操作する、いわゆる「ながらスマホ」が原因で発生した交通事故が後を絶ちません。中には、相手方(歩行者)が亡くなる事故も発生しています。自転車運転中の「ながらスマホ」は、不安定な運転になったり、周囲の自動車や歩行者に対する注意が不十分になり、重大な交通事故につながる危険な行為です。絶対にやめましょう！

また、住宅街でスケートボードやキックボードなどで遊ぶ姿をよく見かけます。自動車が進入してくる道路での遊びは、大変危険です。絶対にやめましょう！



※写真は本文と関係がありません。(資料写真)